

ストリングストッパー(ストリングサプレッション)のテスト



前から気になっていたのですが・・・テスト用のSupra MAX MEのスタビライザーセッティングを調整していたと思います。

Supra のハンドルライザーにはフェース側の上下にカウンターバランス用のホールが2つ造られていてそれぞれタッピングはライザーに対して直角です。

しかも、位置はカム軸からほぼ等価。

ここにストリングストップを取り付けたらどうなるだろうかという疑問・好奇心です。

ほとんどのメーカーがストリングストップをグリップ下にセットしてあるのですが[Bear社のモデル](#)は数年前から上下ペアセットです。

以前お客様に依頼されてこのタイプのストリングストップを持つモデルを取り寄せて納品したことがあるのですが、実射はしていません。

お客様曰く「とても静か」とのこと。

ただしツイン仕様となると調整がデリケートになる気がします。

しかしやってみないとわからないというわけで手持ちのSupra MAX MEに取り付けてみました。

ステップとしてはまず2個仕様でテスト。

ストリングとの位置関係は1個仕様とは異なるはずです。

これでデータを集めてから次のステップとして3個構成も考えられます。

他所さんの情報ではリカーブでの使用も出て来たようなのでちょうど良い時期かと思います。

ストリングストップの効果については大手のショップが単なるサイレンサーだと顧客に説明しているとの話を聞きがっかりさせられた覚えがあります。

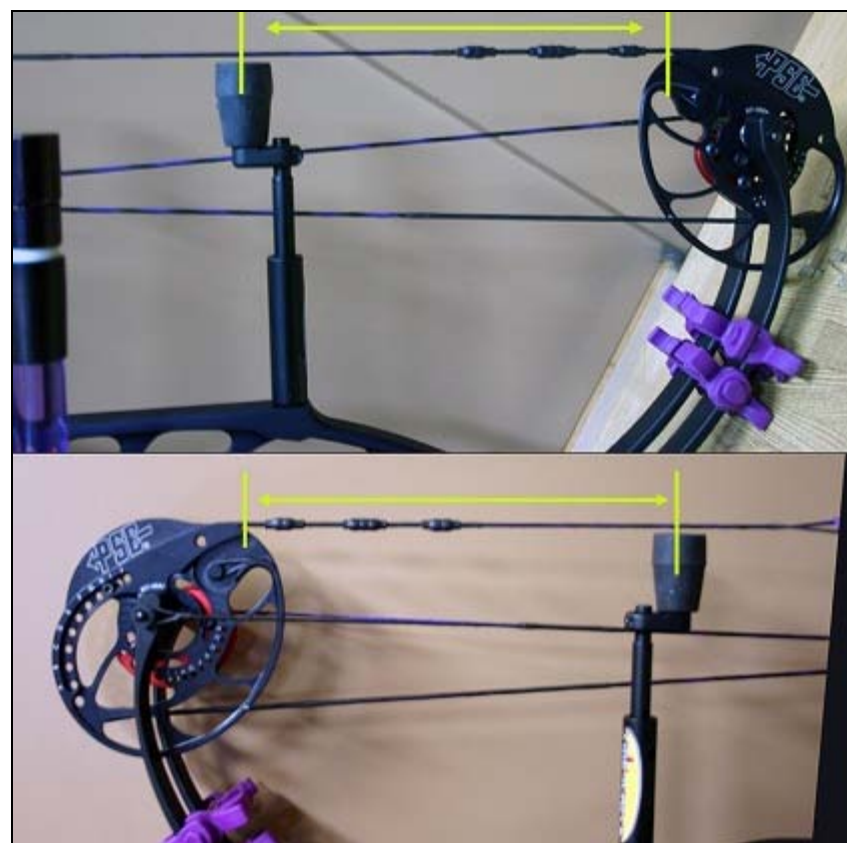
ストリングストップが登場した時に、ストリングとストッパーのラバーの距離をいろいろと試してテストしたことがあり、セッティングによって矢速が変化することを確認していますし、何よりも押手にストリングがヒットすることも防げます。

特にパワーストロークを長くするために、プレースハイトを下けているモデルではその効果も馬鹿にはなりません。

上の写真の黄色の部分でテスト用配置です。カウンターホールのタッピングが垂直であることが絶対条件です。

心配なのはこの上下位置にかかるストレスでハンドルにどのような負荷がかかってくるかが気になります。

ストリングの戻りを考えて、ストッパーラバーの位置を上下カムともカムとストリングの接点からラバーの中心までの距離を等価としてみました。



当初シューティングマシンでシュートし計測する予定でしたが、途中でアーチャーのシュート技術のばらつきをどれだけカバーできるかを知るために私自身の実射に切り替え。

速度計測器が調子が悪く途中でハンディタイプのものへの切り替えなどのトラブルはあったもののなんとか完了しました。

ストリングストッパーの効果調査					
		1	2	3	Ave
なし	-	217	212	219	216
1個	センター	220	219	219	219
2個	上下	219	219	218	219
3個	センター+上下	220	219	220	220
				fps	

結果は表を見ていただくとして、結論から言うと複数遣いとメーカー標準出荷ではあまり差が見られませんでした。

テストは、ストッパーなし、メーカー仕様のグリップ下1個、カウンターホール上下2個、グリップした+上下2個で計3個で行いました。

しいて言えば、2個使いだと若干初速が落ちるようですがあまり差はないといえます。

実用レベルではメーカー標準のグリップ下1個で十分な気がします。

ただし、3個使用の場合上下とグリップしたのストリングとのギャップを段階的にヒットするように調整すると変わってくる可能性はありますが、それはいずれということなので・・・

ところで、もっとも大きな収穫と言えるのは、ストッパーなしの場合でシュートの良しあしで初速の差が大きく出ますしストッパー付より初速は落ちています。

ストリンクストッパーはシュートミスをある程度カバーしてくれている上初速にも貢献しているということだと思えます。



当初、シューティングマシーンでデジタル計測器測定をする予定でしたが測定器の調子が思わしくないので中止。ハンディタイプに切り替えました。

この計測器かれこれ10年以上使用しているので基盤等が劣化しているのかもしれませんが。

アロー初速はスパインの精度高い選定に不可欠なので代替え機器を手配してあります。

ピンチヒッターとして登場したハンディタイプ。

使いやすいのですが、スタビライザーを装着した状態が計測できないのであくまで補助要員です。

CPの場合にはスタビライザーの初速への影響はリカーブボウほどではないのですがやはり皆無とは思えないのでなるべく計測はフルセットの状態で行いたいと考えています。

